

第4回（仮称）図書館中部館建築設計検討委員会

議事録

開催日時：令和6年（2024年）5月28日（火）
午後3時から

開催場所：彦根勤労福祉会館 3階 中ホール

委員：金子 尚志 【千葉工業大学 創造工学部 建築学科 教授】
陶器 浩一 【滋賀県立大学 環境科学部 環境建築デザイン学科 教授】
森 将豪 【彦根市社会教育委員 委員長】
富永 美砂穂 【彦根市地域文庫連絡会 代表】
久木 春次 【彦根の図書館を考える会 代表】
木村 正彦 【彦根史談会 会長】
川瀬 修 【元長浜市立長浜図書館 館長】
瀧澤 秀起 【彦根市建設部 副参事兼建築課長】
大林 覚 【彦根市都市政策部 都市計画課長】
平井 むつみ 【滋賀文教短期大学 国文学科 教授】
北村 みずき 【ひこね児童図書研究グループ 副会長】
村田 恵美 【滋賀県立図書館 館長】（欠席）
北村 祐子 【彦根市校長会 代表 彦根市立平田小学校 校長】（欠席）
磨谷 絵美子 【彦根市PTA連絡協議会 事務局長】（欠席）

事務局：教育委員会事務局 小島部長
市立図書館 田中館長
谷村主幹
鈴木室長
別符館次長
広瀬主務
稲垣

受託業者：株式会社 坂茂建築設計 菅井 啓太
梶原 慧太
Lumimedia lab 岩井 達弥

| | |
|-----------------------|---|
| <p>開始時間 15:00</p> | |
| <p>事務局</p> | <p>定刻となりましたので、ただいまから、第4回（仮称）図書館中部館建築設計検討委員会を開催させていただきます。</p> <p>委員のみなさまにおかれましては、大変、お忙しい中、ご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。</p> <p>それでは、議事に入ります前に、資料のご確認をさせていただきます。資料につきましては、事前にお送りさせていただいていますが、本日、ご持参いただいておりますでしょうか？</p> <p>また、「資料5 室内環境シミュレーション」につきましては、お手元に置かせていただきました。</p> <p>併せて、ご確認、お願いいたします。</p> <p>それでは、次に、会議の成立要件について、ご報告いたします。</p> <p>（仮称）図書館中部館建築設計検討委員会設置要綱第6条第3項により、会議は委員の半数以上が出席しなければ開くことができないことになっています。</p> <p>委員14名中11名の方にご出席をいただいておりますので、会議が成立していることをご報告いたします。</p> <p>それでは、ここからの進行につきましては、委員長をお願いいたします。</p> |
| <p>委員長</p> | <p>第4回ということになりまして、これまで、みなさまから非常に有意義なご意見をいただいております。</p> <p>順調な会議の進行ができるかなと、思っているところでございます。</p> <p>それでは、進めさせていただきたいと思っております。</p> <p>今回で最後ということで、以前からお話しておりますとおり、これまで3回、みなさまから貴重なご意見をいただいております。</p> <p>それをしっかりと反映していただいているようでございます。</p> <p>その基本設計の内容について、事務局から報告を受けたいと思っております。</p> <p>それでは、次第の「2 議事等」、「(1) 第3回 ふりかえりについて」、事務局より説明をお願いします。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>委員長、すみませんが、次第の「(2) 図面等」と「(4) 室内環境シミュレーション」も関連しますので、併せて、ご説明させていただいても、よろしいでしょうか？</p> |
| <p>委員長</p> | <p>委員の皆様方、いかがでしょうか？</p> |
| <p>各委員</p> | <p><頷く。></p> |

| | |
|------|--|
| 委員長 | それでは、そういった形でお願いします。 |
| 事務局 | ありがとうございます。 それでは、ご説明につきましては、受託業者である株式会社 坂茂建築設計よりさせていただきます。 |
| 受託業者 | <説明> |
| 委員長 | ありがとうございました。 これまでのご意見30に対する修正点、それから運営の方針、それと共に図面関係について、ご説明をいただいたという流れだったかと思えます。 基本設計の中で決めておく事、実施設計に申し送りをする事、この辺りというのは、非常に重要な事だと思って伺っておりました。 それでは、ここからは、すでに第3回までで、色々、ご意見いただいておりますが、ここからも、ご意見をいただいて、補足説明が必要なところはしていただくという形で、進めてまいりたいと思います。 それでは、ご意見いかがでしょうか。 |
| 委員 | 先程、回答していただいた中で、見せる書架のところ、生きた書架にしてほしいという事で、どういう本を並べるかというのは、図書館の問題で、開架には出していないけれど、それを見たいという本を置くのですが、この前、お願いしたかったのは、それを図書館員が「見たい」と言われた時に取れるのか。 わざわざ、どこからか脚立を持って来て取るというのでは、頼みにくいというのがあるので、ここを考えていただきたかったんです。 何かありますか。 |
| 受託業者 | 以前、お見せした時には、本棚の上までずっと並べている感じだったのですが、現状（本を置く）高さを下げています。 |
| 委員 | ここは使わない？ |
| 受託業者 | はい、使わないように。 手の届く範囲で、2.4mとか。 (資料4)4ページ右上を拡大 ちょうど、この開口の部分（中央、親子ラウンジから児童開架へ抜ける部分の高さ）までが使えるようになっていきます。 この通路の幅も、前回、委員会時より広くしています。 |

| | |
|------|--|
| 委員 | <p>そういったことで、使いやすくしています。</p> <p>例えば、備え付けの梯子とか、そういったものは、考えていらっしゃるんですか。</p> |
| 受託業者 | <p>それは、考えています。</p> <p>どのようなものが良いか、検討しています。</p> |
| 委員 | <p>(上まで使わないのであれば) 上の部分もつたいない。</p> <p>上まで本棚があって、安全なのか。</p> <p>上の部分を使うのが無理ならやむを得ないという事と、上の部分を使うのであれば、やはり、どこからか脚立を持って来ないと、職員さんの身長も、色々だと思うので、何か、そういうものが要るのではないかと思います。</p> |
| 受託業者 | <p>ただ、割と図書館の方はポジティブに受け取ってくださっています。</p> <p>本が落ちるとか、そういう事がないようにとは言われています。</p> <p>使うという気持ちでは、受け止めてくれています。</p> <p>後は、使いやすさですね。</p> |
| 委員長 | <p>ありがとうございます。</p> <p>恐らく、議事録に書かれていた「生きた書庫」とありましたが、もしかすると「生き死に」の生きるではなく、活用の「活きる書庫」の意味合いだと。</p> <p>今のお話を伺い、建築的に活用できるようにする必要があるのではないかとのお見込みだと思います。</p> <p>安全に活用できるように、その点も踏まえて、ご検討いただければと思います。</p> <p>他に、いかがでしょうか。</p> <p>では、続けてどうぞ。</p> |
| 委員 | <p>もう一点、照明の件ですが、図書館とは、お話が済んでいるのかもしれませんが、書架の照明ですが、上ではなくて、3点に付けると書かれていたかと思いますが、そうしてしまうと、書架の間隔の変更が難しくなると思います。</p> <p>元々、変更できない書架なのか。</p> |
| 受託業者 | <p>書架メーカーとは、一応、変えることができるとは聞いております。</p> |
| 委員 | <p>照明があってもですか？</p> |

| | |
|------|---|
| 受託業者 | この絵で描いているのは、一段棚があって、その棚から上の棚と下の棚、両方を照らそうという考えです。 |
| 委員 | それだと、真ん中に照明が付くじゃないですか。 |
| 受託業者 | そうです。 棚の先端に、上と下に光が行くように、考えている絵なのですが、どこまでやるか。 |
| 委員長 | 最近、色々と高さを変えられて、照明が組み込まれたものもありますが、いずれにしても、今、ご意見いただいたのは、棚の高さが変わることも大事だというご意見だったと思います。 |
| 委員 | <p>資料5について、室内温度についてですが、この図書館は、環境に優しい、自然採光ですとかを採用されているのですが、室内温度が23℃～25℃ということですが、どこの図書館でも一番苦慮されているのが、室内温度と湿度です。</p> <p>図書館は、人と資料、資料は紙ですので、紙は高温・高湿が天敵です。どこの図書館でも苦慮されている。</p> <p>図書館の基準というのはないのですが、一応、国立国会図書館は、目安を出しています。</p> <p>その中で、温度については、16℃～24℃といわれています。</p> <p>湿度は45%～63%です。</p> <p>23～25℃ということになると、非常に図書館としては、温度が高いのではないかと思うのですが。</p> |
| 受託業者 | <p>今回、図書館と打ち合わせをしている中では、あまり湿度の制御までの話はありませんでした。</p> <p>普通の空調を考えています。</p> <p>夏場に関しては、空調していると、湿度は、そこまで高くはならないと思っています。</p> <p>逆に、冬に関しては、湿度は成り行きになります。</p> <p>図書館からは、普通の空調スペックで良いと言われていました。</p> <p>ただ、閉架書庫については、温度、湿度のコントロールについて言われています。</p> |
| 委員 | <p>ただ、彦根は、琵琶湖が近い。</p> <p>高温・多湿。</p> <p>どうしても、ここでシミュレーションされている温度以上になると思い</p> |

| | |
|-------------|---|
| <p>委員長</p> | <p>ます。 夏場は、もっと高いと思います。 当然、湿度も高くなる。 そうすると、カビの発生が問題になると思います。</p> <p>ありがとうございました。 やはり、今、お話がありましたが、彦根の特性みたいなものが非常に重要です。 琵琶湖のお話がありましたが、冬も夏も割と厳しい環境でございます。 その点を踏まえながら、恐らく、先程、申し上げた、実施設計に申し送りするという要素が強いと思います。 そういった意味で、どこを目標にするかということ、しっかりと定めた上で、実施設計に申し送りかなと思います。 貴重なご意見、ありがとうございました。</p> |
| <p>委員</p> | <p>お尋ねしたい事が、一つあります。 図面の8ページ、先程、ご説明がありました避難経路の事ですが、赤い点々のところは、防火シャッターが下りてくるのですね。</p> |
| <p>受託業者</p> | <p>はい。</p> |
| <p>委員</p> | <p>閉鎖されるんですね。 1階の一般開架室からの避難ルートというのは、図面でいうと、上の方へ行って、左へ行くのが一般的ですよ。 そうすると、壁面に小さな机が沢山ありますし、賑わっている時でも、避難できるのか、少し気になります。 1階の閲覧ラウンジへは抜けられない形になっているので、右の方へは抜けられない。 そうすると、閲覧席が邪魔になる。 これで、本当に、効率よく避難できるのか、疑問に思う。</p> |
| <p>受託業者</p> | <p>最後の通路の幅、最後の扉の幅には、限界値があつて、それと同じくらいは確保したいという思いがあります。 避難の事は、非常に重要なので、我々も、その辺りは、もう少し精査していかないといけないと思います。</p> |
| <p>委員</p> | <p>よろしくお願いします。</p> |
| <p>委員長</p> | <p>貴重なご意見、ありがとうございます。 避難ルートが一番重なっているところですので、多方面から、その辺り</p> |

| | |
|-------------|--|
| <p>副委員長</p> | <p>へ集中するというのがわかります。</p> <p>やはり、色々、検証していただくことが、一番、重要なことだと思います。</p> <p>プロポーザルのイメージを崩すことなく、基本設計をまとめていただきまして、プロポーザルの審査をさせていただいた者としては、すごくうれしく思いますし、市の方も、地域の方も、喜んでおられる、期待しておられると思います。</p> <p>一方で、これから、実現に向けて、いくつかのハードルが予想されると思うのですが、それについて、2点、お伺いします。</p> <p>質問というか、お願いかもしれないですが。</p> <p>一つ目は設計者の方にですが、昨今の経済状況ですと、コストの問題です。</p> <p>気になるころだと思います。</p> <p>これからの局面で、コストダウンのために、設計変更が余儀なくされる状況が、必ず起こりえるかと思います。</p> <p>その時に、設計者として、これだけは守りたい、これだけは死守したい、あるいは、ここは譲歩しても良い、変更しても良いというものがあれば、教えていただきたいと思います。</p> <p>二つ目は、どちらかというとしの方にですが、これから実施設計、施工と入っていきますが、この基本設計の内容とか、質を担保できるようなスキル、発注の仕方であったり、要求水準、どのようにされようとお考えですか。</p> |
| <p>受託業者</p> | <p>設計で、一番大事なところとして考えているのは、屏風ファサードだと思っています。</p> <p>屏風ファサードというのは、単なるデザインというものではなくて、光を図書館の中へ、どうコントロールして入れるかというところからきています。</p> <p>先程もあつたのですが、今回、古い建物をリニューアルするということで、21世紀の環境に対して、どう配慮すべきかという事を重要視したいと思っています。</p> <p>それで、屏風ファサードを大事にしたいということ、いかにランニングコストを抑えるかというのを重視したいと思っています。</p> <p>前回の委員会の時に、成蹊大学の図書館を紹介させていただいたのですが、親子ラウンジというのは、どちらかという、デザイン的なところが強い。</p> <p>ただ、これがなくても、この図書館の価値は下がらないのかなと思っています、優先順位としては、屏風ファサードやハニカムビームというのは、すごく新しい提案になっていると思っています。</p> |

| | |
|------|--|
| 副委員長 | <p>あとは、トップライトもあるのですが、自然光でランニングコストを下げるというのがあるのですが、どこまでの数を入れてくるのか。</p> <p>そういったことによって、コスト調整とかもできると思うのですが。一番は、屏風ファサード。</p> <p>あと、環境配慮というのをどうコントロールしていくか。</p> <p>予算の中で、やりくりしていくことなのかなと思っています。</p> <p>全然、違うものができたというのは、よくある話なので。</p> <p>お金がないと何ともできないというのはあるかと思うのですが、是非、設計者の方のがんばってもらいたい。</p> |
| 事務局 | <p>二つ目に関して、お答えさせていただきます。</p> <p>今後、実施設計に進めさせていただきますが、どのように進めて行くかということに関しては、まだ、決まっておりません。</p> <p>ただ、副委員長がおっしゃるように、せっかく、今回、みなさまからいただきましたご意見につきましては、できる限り基本設計に反映させていただき、実現に向けて、実施設計に取り組んでまいりたいと考えておりますので、ご理解いただきますよう、よろしくお願いいたします。</p> |
| 委員長 | <p>ありがとうございました。</p> |
| 委員 | <p>最後の今の説明で、一つ大きい失望を抱いているのが、（これがなくても、この図書館の価値は下がらない）との発言。</p> <p>正直申し上げて、外観、構造について、最初にイメージしたのは、先程、話があった様に、奇をてらったような、言ってみれば、見てくれの良さ。それだけの雰囲気かなと思って、こちらも検討委員会に参加させてもらう中で、構えた部分も、正直、ありました。</p> <p>ところが、前回、坂さんが来られて、中のプラネット構造、私は「きのこ」と言っております、この構造について「何なのかな」と、当初、思っていました。</p> <p>先程、おっしゃったように、成蹊大学の図書館に設けたものをこちらの方に応用するという話だったのですが。</p> <p>成蹊大学の図書館については、NHKの番組でも放映されていました。</p> <p>今回、6月にも（NHKの番組の再放送が）あるということですが、その中で、本当に短い時間のことですが、プラネットの構造を取り入れるというのは何故かということ、出ていたのが、学生の学問と図書をいかに近づけるかということ、プラネットの中では、少数のゼミですとか、そういう場が設けられるようになっていたかと思えます。</p> <p>その時に、出ていたのが、そのゼミの中で、議論の中で、こういう文献が欲しいとなったりした時には、その場からすぐに専門書を取りに行っ</p> |

て、そこで、それを見ながら、また帰ってきて、議論ができると。

そういう風な、大きな目的があったと思うのです。

それを今回（彦根の）図書館に応用するという事は、いわゆる一般開架室があつて、閲覧場所があつてと分離されたものではなく、いかに書籍、資料に利用者を近づけるかという仕掛けが、このプラネット構造にはあるように思います。

私が解釈しているような、プラネット構造で、ここで本と子どもたちをいかに近づけるか。

例えば、夏休みの自由研究や中高校生が、自分で主題を設けて研究するなど、主体的な学習という取り組みが非常に、今、叫ばれています。

その時に、このプラネットのラウンジで、そういう場を設けて、そこで、例えば、自由研究について、司書、専門家がここに入ること、説明して、終わりではなくて、やっぱりそのヒントを与えながら、子どもたちが、児童開架などへ行って、自分なりにそういう本を見つけ出す。

こういう風な流れ。

特に、これからの子どもたちは、どんどん、教科書もそうですし、紙ベースの書籍、資料と離れていきます。

それを、いかに食い止めるのかというのは、図書館の利用について、大きな課題になっています。

やはり、基本である、自分で自分の対象物、書籍をいかに見つけ出してくるか。

また、そういうものを見つける楽しさ。

そういうものを、きちっと捉える。

そういう意味で、このプラネット構造を、今の段階では、評価したいなと思っています。

もう一つあるのは、先程、設計者の方から説明がありました、1階の閲覧ラウンジですが、これを俯瞰^{ふかん}して見てみると、やはり、かなり、何か物足りないなという思いがします。

いわゆる、このプラネット構造で、本と人をいかに近づけるか、そういうところであるならば、やはり、このラウンジというのは、いかに図書館と人を結び付けていくか、入口だと思うのです。

そういう意味だと、これだけのものでは、物足りないなと、考えています。

ここは、これから実施設計で、考えていくといわれている部分があると、お伺いしましたので、図書館として、がんばっていただきたい。

それに加えて、この1階の開架ラウンジから、そういう図書文化といいいますか、本との出会い、本との交わり、本を探す喜び、そういうものがここで醸し出されるような、そういう風な雰囲気を作っていただきたいというふうに、考えているところです。

| | |
|------|--|
| | <p>一つ、質問は、児童開架室からこの親子ラウンジですね (資料4 4 ページ上の部分)。 ここを繋ぐ線というのは、どんな形になっていくのか。 大きな壁に仕切られている感じがしますので。 説明をお願いしたいと思います。 そこ (親子ラウンジ) から児童開架室へ行くところ、閉じたようになって いますよね。</p> |
| 受託業者 | <p>(資料4 4 ページ右上の図、ラウンジから児童開架室へのおりを拡大) このような感じで見えますかね。</p> |
| 委員 | <p>開いているのですね。 理解できました。 ありがとうございます。</p> |
| 委員長 | <p>「図書文化」というキーワードがありましたが、彦根が進める「図書文化」というところを、お考えいただければと思います。 先程、屏風ファサードのご説明に注視されていましたが、そういった。</p> |
| 受託業者 | <p>図書館として、ですよね。</p> |
| 委員長 | <p>はい。 もちろんお考えだと思いますが。 貴重なご意見だったかと思います。 お時間も進んでまいりましたので、この辺りで締めさせていただければ と思います。 最後すみません、私から1点だけ。 今回、「ZEB Ready」というお話がありましたが、形式的な「ZEB」だけではなく、実質的な省エネ、快適性、これがやはり重要な事だ と思います。 もちろん「ZEB Ready」が取れましたというのは、もちろん重要なのですが、それ以上に重要な事は、実質的な省エネ、快適性だと思いますので、その辺りもしつかりと実施設計に向けてご検討いただければ と思います。 ありがとうございました。 ご発言に関しては、以上とさせていただければと思います。 これまで、みなさまにいただいたご意見については、概ね反映できている と感じております。 今日のご発言を踏まえて、実施設計に向けて基本設計で押さえるところ を、しっかりと取りまとめていただければと思います。</p> |

| | |
|-----|--|
| | <p>委員のみなさま方、いかがでしょうか。 そういった方向に向けて進めていくということで、ご理解いただけますでしょうか。</p> |
| 委員 | <p>異議なし。</p> |
| 委員長 | <p>ありがとうございます。 他のみなさまも「異議なし」ということで。 どうもありがとうございました。 それでは、事務局において、本日、委員のみなさまからいただいた発言も踏まえ、最終、基本設計の取りまとめに向けて、よろしくお願ひします。 天候の悪い中、お集まりいただきましたが、本日の議事、設計検討委員会を含めて、これで終了いたします。 みなさま方には、昨年の10月から今日を含めて4回にわたりまして、約8か月という長い時間をかけてのご議論だったと思います。 本来であれば、委員一人一人にお礼を申し上げたいところですが、時間の関係でご容赦いただければと思います。 心からお礼を申し上げます。 それと共に、本日、「第3回 ふりかえり」で意見30をふりかえっていただきましたが、改めて、意見等30を拝見しますと、専門的な見地から、色々なご意見をいただいたと、改めて、感じました。 私も、勉強させていただいたところもございました。 改めて、感謝いたします。 どうもありがとうございました。 それでは、進行を事務局にお返しします。よろしくお願ひします。</p> |
| 事務局 | <p>委員長、司会の進行、難しいところ、4回にわたりまして、どうもありがとうございました。 また、委員のみなさま方につきましては、4回の会議の中で、熱心な検討をしていただきまして、誠にありがとうございます。 まだまだ、不十分なところもございますが、本日、お伺いいたしましたご意見等を踏まえ、もう少し設計事務所と協議し、より良い中部館になるよう、進めてまいりたいと考えます。 それでは、閉会にあたりまして、教育部長よりお礼の言葉を申し上げます。</p> |
| 部長 | <p style="text-align: center;">＜お礼の言葉＞</p> |
| 事務局 | <p>それでは、これもちまして、第4回(仮称)図書館中部館建築設計検討委員会を閉会とさせていただきます。</p> |

| | |
|--|--|
| | <p>なお、取りまとめた基本設計書につきましては、後日、委員のみなさまへお送りさせていただきます。</p> <p>本日は、どうもありがとうございました。</p> |
|--|--|

以上